

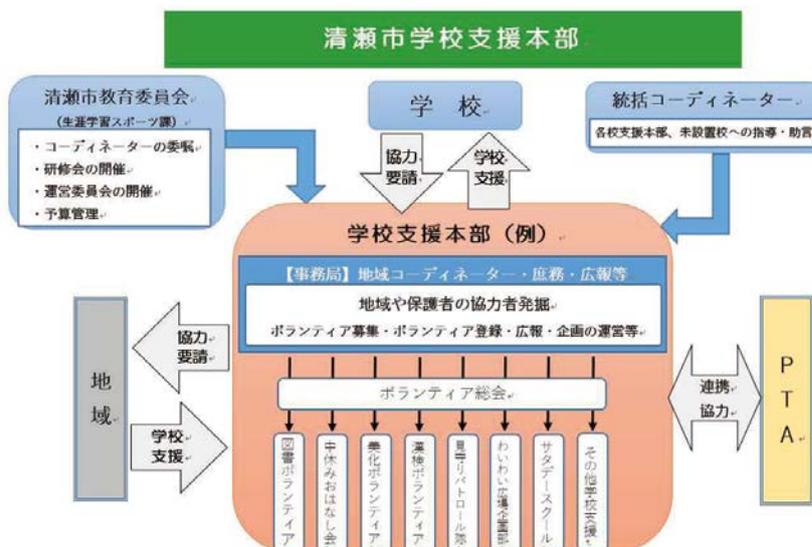
◆事業方針（計画等における位置づけ）

本市の最上位計画である「第4次清瀬市長期総合計画・実行計画」及び清瀬市の教育の指針を示した「第2次清瀬市教育総合計画マスタープラン・実行計画」において、地域連携による学校教育を推進するための重要施策として位置付けている。

◆地域学校協働活動（学校支援活動を含む）の実施体制（特徴・工夫等含む）

平成30年度は学校支援本部を小学校3校、中学校2校に設置し、地域と学校が協働する仕組みづくりを推進している。

各本部設置校には、校長から推薦を受けた地域コーディネーターを1～3名配置し、本部事業の連携及び調整等を行っている。また、各本部の地域コーディネーターとの調整や未設置校への働きかけなどを行うため、統括コーディネーターを1名委嘱している。



◆広報活動

（パンフレット、HP活用、広報誌、報告書など）

- ・市報やHPにて学校支援本部でのイベント等を紹介
- ・学校支援メニュー冊子の作成
- ・学校支援本部紹介DVDの作成

◆コーディネーターの育成・交流の機会提供や学校に対する事業理解促進

- ・コーディネーター情報交換会開催（年2回程度）
統括、地域コーディネーター、教育委員会職員が参加して現状報告や研修等を行う。
- ・校長会及び副校長研修会等での事業説明
コーディネーターからの事業報告などにより理解促進を行う。
- ・都主催の研修会やフォーラムへの参加促進
他市での取り組み等を参考にして幅広い活動へとつなげる。

◆成果

- ・市内でのモデル校として最初に設置した三小学校支援本部では、年間を通じたボランティア登録数が過去3年間で135名から165名になるなど、地域からの参画が増加している。
- ・モデル校での事例を参考にすることや、統括コーディネーターの配置により、学校支援本部設置校が平成29年度より3校増えた。設置数が増えることで地域同士の横のつながりの強化にもなっている。
- ・地域と連携した様々な取り組みを行うことで、児童が豊かな体験学習に取り組むことができている。
- ・保護者会などの機能の一部を学校支援ボランティアが担うことで、保護者の負担軽減につながった。

◆課題・展望

学校や地域の方に学校支援本部の役割を理解していただくとともに、市内全校設置を目指す上で課題であるコーディネーターの発掘及び育成を図り、地域の力を学校に生かす仕組みづくりの推進を進め、学校を核とした地域コミュニティの構築をしていく。